



誌上 進路指導ケーススタディ この生徒とどう向き合う?

そろそろ志望校調査をスタートさせることが多い、2年生3学期の生徒のケースです。受験モードに切り替えていく3年生を前に、具体的な目標をもたせたいところですが、その分生徒の悩みも明らかになってきます。今回は、考えられる最善と最悪の対応を、それぞれ考えてみてください。

取材・文 / 清水由佳 イラスト / おおさわゆう

ケーススタディ

No. _____

志望校調査で、何も書かず提出した理系コースの生徒(2年生)との面談

<やりとり>

教師：志望校を何も書いていなかったけど、どうしたかな？

生徒：なんか、今ひとつ、ここに行きたいという学校や学部がなくて…。

教師：前は、〇〇大学の××学部を目指してみたいというような話をしていたよね。

生徒：うーん、皆が結構そこを第一志望にしていたから、そんなもんかなと思っていたんだけど。

親も、そこがいいよって言っていたし。だけど、最近思うんだけど、

そもそも、数学とか物理とか、あんまり好きじゃないなあって…。

↓ こんな生徒への対応を考えてみてください。

- ① このようなケースで考えられる最善の展開は、どのような対応だと思いますか？
- ② 逆に、最悪の展開は、どのような対応だと思いますか？
- ③ ②のような対応にならないためのポイントは、どんなことだと思いますか？ ①と②の大きな違いは何でしょうか。

教育カウンセリング心理学の専門家の視点から、ケース対応の極意をアドバイザーいただきました。

最善と最悪の違いを考え、自分の指導を客観視しましょう



会津大学 文化研究センター
上級准教授
荻間澤 勇人 先生

かりまざわ・はやと●1986岩手大学工学部卒業後、岩手県公立高校教諭に。早稲田大学大学院教育学研究科後期博士課程単位修得退学。教育学、教育カウンセリング心理学を専門とする。2015年4月より現職。

このようなケースで最悪なのは、「何をやってんだ」と責めたり、「投げやりにならずがんばれ」と耐えることだけを迫ることです。本人はまだ人生に迷っている時期で、自分の生き方を探しているのだと、先生自身が心の余裕をもって対応してあげてほしいと思います。

悩んでいるのは、将来に向かって前向きな証拠です。単に志望校のことだけではなく、キャリアのことも含め、パバツと目先のことで決めてしまうのではなく、真剣に理解していく支援をしてあげてほしいと思います。

人のことを気にしているようですが、それはあくまでも参考で、将来は自分のものであること、そのためにしっかり考える時間的余裕をもつことが大事だと伝え、先生は伴走者として見守ってあげてほしいと思います。人生や生き方を共に探ることが大切です。

とはいえ、あまりのんびりしすぎるのもまずいのは確かです。すみやかに援助するために、まず「悩んでいるんだね。でも解決していきたいと思っているんだね」と理解を示し、「そのためには、先生がしっかり支援していくよ」と語り、援助関係を築くことが大切です。そうすると、良い援助につながっていくのではないのでしょうか。

From Teachers



私なら

こうする！

こうした！

志望校調査で何も書いてこなかった2年生の生徒。それぞれの先生が、どのような対応を考えられるかお伺いしました。

志望校決定の基準を再度探索

福岡県・北九州市立高校 南正起先生



① 最善と思われる展開

このケースのような生徒は、志望校を決定するための自身の方針が確立していないためだと思います。苦手教科があったとしても、志望校が確立したら、がんばる気力が出てくると思われれます。そこで、生徒の志望校決定の基準を確立させるために、以下のような指導を行います。

- ① 友達に影響を受けたとしても、その大学に何らかの魅力を感じていたことがあることを思い出させる。
- ② その大学の資料・パンフレットを取り寄せさせて、一緒にその大学に惹かれた点を話し合っ。
- ③ 友人がその大学を志望校にした理由を考えさせてみる。
- ④ 惹かれた点が見つかったら、その点を基準として、志望校検索を行わせる。

② 最悪だと思う展開

とりあえず、その大学を志望させることと、苦手教科のない志望校を考えさせることです。

③ ①と②の大きな違い

目標（志望校の基準）を明確にすることと、志望校決定から逃げさせないことです。

自分で決める！の後押しを

大阪府・匿名希望先生



① 最善と思われる展開

理系・文系で違和感があるようなら、「外国では日本みたいな分け方はしない。大学で学んでから医者や道を選ぶか、弁護士か、それとも学者かなどを考えることの方が普通とも言える」と伝えて、だから、「学校がきれいだからかわいい女の子が多いとか、家から近いとかでもないで、とにかく自分の眼で見て、がんばってみようという気になる大学を探してごらん」というのが正解に近いかなと思います。

② 最悪だと思う展開

無理やり説得して、どこかの大学・学部を勧めて受験させることでしょうか。

③ ①と②の大きな違い

このようなケースはすごく難しいと思います。

スクールカウンセラーの視点

このようなケースで、スクールカウンセラーならどう対応されるのか。先生たちとの協力の在り方なども伺いました。



ガイダンスカウンセラー
木村佳穂さん

2005年、岩手大学大学院教育学研究科修了後、青森県と栃木県で6年ずつスクールカウンセラーとして勤務。2017年3月まで、早稲田大学教育・総合科学学術院で非常勤講師も務める。

もう2年ではなく、まだ2年。
焦らず将来を検討する時間を

このケースのような場合、目先のことよりも、より長い時間軸で未来展望を考える時間をとることが大事だと思います。何に興味をもっていて、将来の仕事をどうイメージしていくか、丁寧に探っていくことが必要です。また、必要に応じて適性検査や性格検査などを実施し、生徒の自己理解を深めることも効果的です。自我を確立させる大切な時期でもあることから、自分を理解することが現在の判断や行動を左右すると考えます。

とかく、「もう2年生のこの時期なんだから」と結論を急いでしまったり、焦らせがちですが、「まだ2年生。まだ1年もある」と、立ち止まる時間をとってあげてほしいと思います。結局は、本人が自分の将来像を納得して描けるかどうか、目的意識がしっかりつけられるかどうか、大事だと思います。

また、教科に関しても、「好きじゃない」とは言っていますが、「嫌い」とは言っていない。このような話では、「だったらその科目のない受験校を探す」という提案をしがちですが、それでは解決になりません。得意だと思って進んできたけれど、何でつまづいているのか。意味をきちつとらえることで、対処の仕方が異なってきます。教師自身の思い込み(ピリフ)にひきずられないことも大事です。

そのためにも、今回は最善のケースと最悪のケースでの違いは何かを考えていただきまし。それは、教師自身が、自分の指導を客観視する機会につながると思います。自分の癖を理解し、生徒主体でやる気スイッチが見つかると、そして生徒自身がスイッチを押せるような支援に、ぜひつながってください。

「何も書いていなかったのは、悩んでいるんだよね? 何か考えていることはあるの? 理系とか文系にとらわれないで、何か興味のある分野はあるのかな? 分野じゃなかったら、何でもいから興味あることはない?」

そのうえで、何か出てきたら、「なぜ興味があるの?」と尋ね、興味があることからいろいろ引き出して、どうすればやる気になるか一緒に相談して「そのことなら、がんばれるね」と問いかけます。

もし、何も出てこなければ、「以前の卒業生で、化粧品に興味があった化学の勉強をしよう」と理系に進んだものの、数学は好きだったんだけど、いまいち勉強に手がつかない生徒がいたんだよね。そんな彼女が2週間の海外語学研修に参加したら、そこからやる気スイッチが入って、外国語学部へ進路希望を変更して、入学してがんばっているよ。勉強をがんばろう

「何も書かなくていい。何も決まっていなくてもいい。みんなが第一志望にしているところを目指して、あんまり好きじゃない数学・物理をがんばってみよう」という投げかけだと思います。

「何も書かなくていい。何も決まっていなくてもいい。みんなが第一志望にしているところを目指して、あんまり好きじゃない数学・物理をがんばってみよう」という投げかけだと思います。

「何も書かなくていい。何も決まっていなくてもいい。みんなが第一志望にしているところを目指して、あんまり好きじゃない数学・物理をがんばってみよう」という投げかけだと思います。

生徒のやる気(モチベーション)スイッチがいつどのように入るかが大切で、やる気がないとやらされる勉強になってしまいます。もちろん与えられたことをきちんと行うことも大切だと思います。

自分からがんばろうという気持ちがないと3年生になったときに、1日何時間もの受験勉強に耐えられないと思います。

モチベーションを重視する展開を

静岡県沼津市立沼津高校 谷野公彦先生

① 最善と思われる展開

まずは、以下のような投げかけを考えます。「何も書いていなかったのは、悩んでいるんだよね? 何か考えていることはあるの? 理系とか文系にとらわれないで、何か興味のある分野はあるのかな? 分野じゃなかったら、何でもいから興味あることはない?」

そのうえで、何か出てきたら、「なぜ興味があるの?」と尋ね、興味があることからいろいろ引き出して、どうすればやる気になるか一緒に相談して「そのことなら、がんばれるね」と問いかけます。

もし、何も出てこなければ、「以前の卒業生で、化粧品に興味があった化学の勉強をしよう」と理系に進んだものの、数学は好きだったんだけど、いまいち勉強に手がつかない生徒がいたんだよね。そんな彼女が2週間の海外語学研修に参加したら、そこからやる気スイッチが入って、外国語学部へ進路希望を変更して、入学してがんばっているよ。勉強をがんばろう

② 最悪と思われる展開

「何も書かなくていい。何も決まっていなくてもいい。みんなが第一志望にしているところを目指して、あんまり好きじゃない数学・物理をがんばってみよう」という投げかけだと思います。

「何も書かなくていい。何も決まっていなくてもいい。みんなが第一志望にしているところを目指して、あんまり好きじゃない数学・物理をがんばってみよう」という投げかけだと思います。

「何も書かなくていい。何も決まっていなくてもいい。みんなが第一志望にしているところを目指して、あんまり好きじゃない数学・物理をがんばってみよう」という投げかけだと思います。

生徒のやる気(モチベーション)スイッチがいつどのように入るかが大切で、やる気がないとやらされる勉強になってしまいます。もちろん与えられたことをきちんと行うことも大切だと思います。

自分からがんばろうという気持ちがないと3年生になったときに、1日何時間もの受験勉強に耐えられないと思います。

③ ①と②の大きな違い

何も書いていない。何も決まっていなくてもいい。みんなが第一志望にしているところを目指して、あんまり好きじゃない数学・物理をがんばってみよう」という投げかけだと思います。

「何も書かなくていい。何も決まっていなくてもいい。みんなが第一志望にしているところを目指して、あんまり好きじゃない数学・物理をがんばってみよう」という投げかけだと思います。

「何も書かなくていい。何も決まっていなくてもいい。みんなが第一志望にしているところを目指して、あんまり好きじゃない数学・物理をがんばってみよう」という投げかけだと思います。

生徒のやる気(モチベーション)スイッチがいつどのように入るかが大切で、やる気がないとやらされる勉強になってしまいます。もちろん与えられたことをきちんと行うことも大切だと思います。

自分からがんばろうという気持ちがないと3年生になったときに、1日何時間もの受験勉強に耐えられないと思います。